

科目名（英文表記）	<b>ビジネス倫理</b> <b>( Business Ethics )</b>		
科目区分	基本科目	単位数	2 単位
担当教員名	南 健悟	ナンバリング	MBA_B_EL 5111
研究室番号		研究室電話番号	
Eメール・アドレス	minami.kengo@nihon-u.ac.jp		
<b>授業の内容及び方法：</b> 次頁以降に記載			
<b>授業の目的：</b> この授業では、経営者等が身につけるべき「企業倫理」について概観し、具体的なケースを通じて、企業がどのように行動すべきであるのかを明らかにしつつ、実際に会社経営にとって必要なスキルを修得することが目的である。より具体的には、企業倫理とは何か（企業倫理の意義）、なぜ企業は倫理的な行動を要求されるのか（企業倫理の必要性）、また、どのような行動が倫理的な行動といえるのか（倫理的行動の具体化）、また倫理的行動の一種としての法令遵守経営など、このような観点から企業倫理の問題を捉え、実際に会社経営を行うに当たり、どのような行動をとるべきであるのか、ということ認識することが目的である。 またこの講義ではゲストスピーカーにより、実際の不祥事対策・不祥事対応方策等についても話を頂く予定である。			
<b>到達目標：</b> この授業の到達目標は、経営者として、管理者として、また従業員として、企業経営に携わる者が、企業倫理やコンプライアンスの必要性を認識し、事業活動を行っていくうえで、倫理的又は法的な問題が生じた場合に、予めそれを防止したり、対応したりするための能力を身につけることにある。			
<b>使用教材：</b> 教科書は指定しないが、ビジネス倫理を学ぶに当たって以下の文献を紹介する。 ○高巖『ビジネスエシックス [企業倫理]』（日本経済新聞出版社、2013年） ○山口利昭『不正リスク管理・有事対応』（有斐閣、2014年） ○中東正文『会社法（有斐閣ストゥディアシリーズ）』（有斐閣、2017年） そのほかの文献等についてはその都度紹介する。 なお、資料等はE-Learningにアップしておく。			
<b>成績評価の方法：</b> 成績評価は、以下の評価項目に基づいて行う。 ○出席：10% ○講義への参加及び貢献度（質問やディスカッションにどれだけ参加していたか）：20% ○事前及び事後課題：30% ○最終プレゼンテーション：40% 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。			
<b>履修上の注意事項：</b> ○講義には積極的に発言（質疑応答）すること。 ○欠席の際には、別途課題を課す。 ○各モジュールの内容については、ゲストスピーカーの場合には変更することがある。 ○休講が発生し、モジュールのスケジュールが前後する場合がある。			

## 授業の内容及び方法

<b>モジュール 1</b> ビジネス倫理の基礎①—倫理なき経営の末路	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 1 時 限</b>	オリエンテーション及び企業倫理の重要性 まず、オリエンテーションにて、本授業の進め方を確認した上で、企業倫理の基本的な内容について講義を行う。企業経営における倫理の役割について確認する。企業経営にとって、健全な倫理原則に基づいた価値観の体系が優れた組織を構築する基礎であるとの指摘を踏まえて、企業倫理の重要性について講義を行う。
<b>第 2 時 限</b>	ビジネス倫理の意義 倫理なき経営は、結果的にどのような状態になってしまうのか。そして、倫理に従って経営することが経営者にとって必要なことなのかということについて講義する。企業倫理に対しては、倫理は経営と関係ないとか、倫理や法を守っていても、企業は生き残れないとの批判もあるが、それに対してどのように応答すべきかを考える。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 2</b> ビジネス倫理の基礎②—コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 3 時 限</b>	コーポレート・ガバナンスの基礎 そもそも会社において、なぜ不祥事が発生するのだろうか。アダム・スミスは株式会社自体を欠陥的制度とみなしていたが、それはなぜか。株式会社の特徴から、会社は法的に見て、どのような組織構造を有しており、どのような問題が内在しているのかを指摘し、いわゆるコーポレート・ガバナンス論と呼ばれる問題について講義をする。
<b>第 4 時 限</b>	コンプライアンスの重要性 会社が法令違反行為をした場合に、会社や当該会社の経営者に対してどのような法的な責任が生じるのかについて解説をする。会社はコンプライアンス（法令遵守）が重要であるといわれるが、そのコンプライアンス違反があった場合の会社や経営者に対するサクションについて指摘し、コンプライアンスの重要性について講義する。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 3</b> ケース①—企業の会計不正	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 5 時 限</b>	経営者の株主・投資家に対する責任
	企業における株主の位置づけを確認した上で、経営者は、株主・投資家に対して、どのような倫理的・法的責任を負っているのかということを解説する。近年でも、オリンパスや東芝など日本を代表する企業において粉飾決算など、経営者の株主や投資家（証券市場）に対する背信的な行為が散見される。会計不正が生じた場合の法的責任やその背景について解説する。
<b>第 6 時 限</b>	市場を脅かす経営者の非倫理的行動
	経営者が非倫理的行動をとることによって生じる問題を実際の具体例を用いながら、それを明らかにしつつ、どのような行動を経営者はとるべきと考えられるのか、ディスカッションしながら検討する。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 4</b> ケース②—取引先への不適切な行為	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 7 時 限</b>	取引先との不公正な取引
	企業間取引は、消費者取引とは異なり、一般的には対等な関係による交渉が行われた上での公正な取引が行われるとも言われる。しかし、実態は、取引当事者間において、交渉力の格差が行われ、不適切な取引慣行が行われることがしばしばある。例えば、不適切な形でホテルが取引先へ宿泊券を買わせるとか、不適切な形で小売店が取引先に販売店員を派遣させることがあるが、それが競争市場に対する違法行為（反倫理的行為）となることを解説する
<b>第 8 時 限</b>	不公正な取引と対応
	不公正な取引がなされるような場合、そのようなことが行われることの背景（原因）や、その防止策について、交渉力が弱い企業からの対応だけではなく、そのような行為を行っている企業での対応策等についてディスカッションしながら検討する。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 5</b> ケース③—企業と従業員との関係	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 9 時 限</b>	従業員の法的保護
	企業にとって従業員は欠くことのできない存在として位置づけられる。しかしながら、企業は利益優先のあまり従業員に対して搾取的な行為をすることもしばしばある。そこで、法は従業員を保護するための方策を用意するが、その具体的な内容について講義する。
<b>第 10 時 限</b>	Karoushiする従業員
	過労死（Karoushi）という言葉は、英語になった日本語の一つと言われる。働き方改革等も踏まえて、仕事によって命が奪われることが、残念ながら日本ではよく見られる。そこで、なぜ企業は過労死させるほど、従業員を働かせるのか、そのような状況にならないようにするための防止策はあるのか、ということディスカッションしながら検討する。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 6</b> ケース④—企業経営リスク発生時の対応	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第 11 時 限</b>	企業のリスク対応の重要性
	経営において何らかの不正行為や違法行為を認知した場合、企業はそれに対する対応に迫られる。社内においてリスクを認知したにもかかわらず、それを放置した場合や、リスク情報がマスコミや SNS 等によって拡散した場合、企業には多大な損失が発生する可能性がある。そこで、企業内で不正行為等を認知した場合、それに対応することの重要性を講義する。
<b>第 12 時 限</b>	企業のリスク対応のあり方
	企業内にて不正行為等が発生した場合、経営者としてはそれに対して適確かつ迅速に対応すべきことはリスク管理という側面や法的な側面の両方でも重要となる。そこで、この時限では、実際行われたリスク対応を素材に、具体的にどのようなリスク対応が望ましいのかについて、ディスカッションしながら検討する。
<b>復 習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 7</b> 企業の社会的責任 (CSR)	
<b>事前準備</b>	事前に指定された資料を読み、指示された事前課題に回答して授業に参加すること。
<b>第13時限</b>	企業の社会的責任の意義 <p>企業は誰のために経営されるべきか、という議論の中では、株主利益最大化という考え方と、ステークホルダー論という考え方が存在する。そこにいうステークホルダー論においては、企業は企業の利害関係者(ステークホルダー)の利益に配慮した経営が重要であると指摘される。また企業は社会の公器とも呼ばれる。そのような言説と企業の社会的責任というのは密接に関わってくる。そこで、このような指摘を踏まえた上で、企業の社会的責任の意義について解説する。</p>
<b>第14時限</b>	企業の社会的責任の具体例 <p>企業の社会的責任について、実際の各社のCSRレポートを素材に、実際の各社が考えている社会的責任とは何か、ということについてディスカッションしながら検討する。</p>
<b>復習</b>	講義で取り上げた内容について理解を深めておく。

<b>モジュール 8</b> 倫理的行動の実践のプレゼンテーション	
<b>事前準備</b>	具体的なケースを事前課題として、そのようなケースの場合、自らが経営者になったつもりで、どのような行動をとるべきなのかということプレゼンテーションするための準備を行う。
<b>第15時限</b>	倫理的行動の実践のプレゼンテーション <p>グループ毎に、倫理的行動の実践をプレゼンテーションしてもらい、ディスカッションする。</p>
<b>復習</b>	ディスカッションを踏まえた上で、各個人でプレゼンテーションした内容をレポートとしてまとめておく。